

# ひるまだより



OPひるま歯科 矯正歯科  
OP Hiruma Dental Clinic

〒190-0012 立川市曙町1-36-1 曙第3ビル2F  
TEL=042-526-3376 HP=http://www.hiruma.or.jp/  
E-mail=clinic-contact@hiruma.or.jp

4月						
日	月	火	水	木	金	土
					01	02
休	04	05	06	休	08	09
10	休	12	13	休	15	16
休	18	19	20	休	22	23
24	休	26	27	28	休	30

5月						
日	月	火	水	木	金	土
休	休	休	休	休	06	07
08	休	10	11	休	13	14
休	16	17	18	休	20	21
22	休	24	25	休	27	28
休	30	31				

◆**初診の時の印象はいかがでしたか。**  
——院内がとてもきれいであたたかい雰囲気。スタッフの方もすごく感じが良く安心してました。晝間先生からは、顎の骨の大きさに対して歯が多く、きれいに並んでいないので、抜歯をしてから矯正治療を始めることを勧められました。抜歯は4番から5番の歯が一般的だけれど、レントゲンを撮ってみると、左下の6番の歯が神経を抜いていて根っこ先に膿がたまっている状態だったことがわかりました。晝間先生から「将来的なことを考えると5番で

◆**医院選びはどのようにしましたか。**  
——インターネットで検索したらトップに出てきたのがOPひるま歯科矯正歯科でした。ホームページを見ると、「立川で一番歴史のある矯正歯科」と紹介されていたので信頼できそうだなと思ったこと、矯正治療が終わってからもお口のメンテナンスをしっかりしてくれることなどが詳しく書いてあったので、いいなと思いました。

◆**OPひるま歯科矯正歯科で治療をしてよかったですか。**  
——毎回、治療内容について晝間先生が詳しく説明してくれたことで、いつも前向きな気持ちで治療に臨めたと思っています。治療が終わわり、以前より口が閉じやすくなり、歯の重なりがなくなりましたので歯が磨きやすくなったことを実感しています。振り返ってみると34カ月はあっという間でした。衛生士さんがしっかり指導してくれるので、これからもアドバイスをもらいながら、むし歯をつくらないようにしていこうと思います。

◆**治療期間中、つらかったことはありますか？**  
——治療期間が34カ月と長かったので、つらいと思ったことはありません。きれいな歯並びになるという最終目標があったので、治療期間中はワイヤーを着けた生活が当たり前だったので、じゃまだとは思いませんでした。

患者さんインタビュー 36 Hさん  
将来のことを考えた治療方針に納得  
長い治療期間、いつも前向きに臨めた  
◆**矯正治療を始めようと思ったきっかけを教えてください。**  
——歯並びがデコボコしていて上下の歯が前に出ているので、唇に力がいれないと口をしつかり閉じられないことなどが気になっていました。社会人になったのをきっかけに、矯正治療を始めることに決めました。

は6番の歯を抜いたほうが良いかもしれませんが。治療期間が少し長くなるかもしれないけれど、長い目で見ると、すでに神経を抜いた歯を残しても、いつか抜くことになる可能性もあります。5番を抜くか6番を抜くか、よく考えて決めてください」と言われました。少し悩んだのですが、将来のことを考え、6番を抜くことに決めました。

インタビューの内容をタイポグラフィ版でお届けします。全文はホームページに掲載していますのでご覧ください。



## Hさんの症状について解説します OP ひるま歯科 矯正歯科 院長 晝間康明

初診時の診断  
上突咬合 両突歯列  
叢生歯列弓 下後退顎



上顎前歯の突出感、前歯部の叢生（乱杭歯）、口元の突出感を主訴に来院されました。白歯関係は上顎歯列に対して下顎歯列が後方に位置する傾向、上下顎前歯部には叢生を認めました。パノラマX線写真で下左6番に不十分な根管治療、歯の根の先に炎症による黒い影（根尖病巣）等を認めました。

治療方針は抜歯により顎骨内にスペースを確保し叢生の改善、前歯を後退させる事としました。本来なら上4番下5番の抜歯が理想的でしたが、下左6番が失活歯であり根管治療が不十分で根尖に透過像を認める事、う蝕リスクが高く2次う蝕の可能性が高い事などから方針1、2を提示し説明した結果、方針2を選択されました。

方針1：上4番下5番を抜歯。動的治療期間は約30カ月。  
メリット：前歯の後退量大きい。  
デメリット：下左6番の失活歯を残すために将来的なリスクが高い。  
方針2：上4番下6番を抜歯。動的治療期間は約36カ月。  
メリット：失活歯である下左6番を抜歯できる。  
デメリット：前歯の後退量は少なくなり治療期間が長くなる可能性が高い。  
動的治療後の評価では、叢生の改善だけでなく上下顎前歯の後退により口唇の突出感、口唇閉鎖時の緊張感は改善されました。また咬合平面は平坦化して、前歯から白歯まで緊密に咬合し咬合圧が均等に分散される咬合関係を得られました。